

図書館だより

No.9
2025年12月5日発行

冬休みも間近です。長期の休みは、日頃読書の時間がないという人も、本を読むチャンスです。今年1年の読書を振り返ったり、新しいシリーズ物にチャレンジしたりして、お気に入りの本を見つけてください。



冬休み前の貸し出しについて

貸出日 2025年12月12日（金）から
12月18日（木）

貸出冊数 2冊まで

返却日 2026年1月13日（火）まで

図書委員のお薦め本

「ジュニアのための万葉集」

根本 浩 著

万葉集を現代語訳と解説を加えて紹介する本です。当時の人々の生活や自然とのかかわり、歌に込められた心を感じ取ることができます。

枕詞など、和歌の表現技法の学習にも役立ちます。

「世界遺産の建築を見よう」

古市 徹雄 著

建築の歴史や背景をわかりやすく解説し、世界遺産の建物をカラー写真で紹介しています。建築の基礎的な知識があると、建物を見る楽しみが広がります。この本を読んで、建築に興味をもってほしいと思います。

「ゼロからトースターを作つてみた結果」

トマス トウェイ 著

著者は、原材料を調達するところから、トースターの製作を試みます。

普段当たり前に使っているものが、どれほどの労力と多くの人の手を経て生み出されているかを再認識させてくれます。

「ヘンな科学 イグノーベル賞研究40講」

五十嵐 杏南 著

イグノーベル賞は「人々を笑わせ、そして考えさせる」研究に贈られます。この本に書かれた研究には、意外な実用性や科学の神髄が隠されています。科学になじみがない人も楽しめる内容だと思います。

《中学生》

こんな本を読んでみたら

SINCE1975



冬休みは、本に親しむ絶好の機会です。
ぜひ読んでほしいと思う本を選んでみました。
図書館で借りたり、書店で求めたりして、みな
さんの読書の世界を広げましょう。

2025年度・冬休み
第95号 中学生
一宮市教育研究会
学校図書館教育部

4648 それいけ！平安部 宮島 未奈 小学館 ¥1600+税	高校の入学式の日に、平尾安以加は、同級生の牧原栄に「平安時代に興味ない？」と声をかけ、平安部を立ち上げようと説います。新部の創設には、五人の部員が必要なため、二人は部員集めに奮闘します。個性豊かな部員たちが、平安時代の遊びや文化を体験しながら、居場所を見つけ、友情を育んでいきます。
4649 謎の香りはパン屋から 土屋 うさぎ 宝島社 ¥1500+税	大学生の小春が、パン屋でのアルバイト中に遭遇する、パンにまつわる「日常の謎」を解決していく連作ミステリーです。親友のドタキャンをきっかけに小春が周囲の人々のささやかな謎を推理し、意外な真相にたどりつけます。焼きたてのパンの香りが読者を癒やし、人の記憶や感情を感情を解きほぐしてくれます。
4650 私の職場はサバンナです！ 太田 ゆか 河出書房新社 ¥1420+税	南アフリカ政府公認のサファリガイドである著者が、職場「サバンナ」について、様々な角度から語っているガイドブックです。不思議で魅力的な生き物たちの生態や、人間を起点とした環境破壊の現実に触れつつ、豊かなアフリカの大自然の中で、人と動物が共に生きていく新たな未来を模索する一冊です。
4651 私と家族と「川の図書館」 熊谷 沙羅 有隣堂 ¥1400+税	13歳で東京の川辺に図書館を作った熊谷沙羅さん。その図書館は、本の持ち出し自由、返却不要、人が自然に集まる素敵な場所になりました。コロナ禍でも、人を「本」でつなごうと思い立ち、持ち前の明るさと行動力で作った「川の図書館」。底抜けに明るい沙羅さんと彼女を支えた家族の言葉が胸を打ちます。
4652 サヨナラは言わない アントニオ・カルモナ 小学館 ¥1600+税	フランスに住む12歳のエリーズ。日本人である母を亡くして以来、父に日本語や日本文化を禁止され、母の思い出を封印した生活を送ります。ある日、日本からソノカおばあちゃんがやって来て、閉ざされた家族の時間が大きく動き出します。喪失と向き合い、未来へ踏み出す少女の姿に深く勇気づけられます。
4653 Garden 8月9日の父をさがして 森越 智子 童心社 ¥1800+税	隣に越してきた男の子からもらったタネ。見つかった被爆者健康手帳。どこか他人行儀だった父…。小さな出来事をきっかけに、亡くなった父の8月9日の足取りをたどっていくと、そこには、今まで知ることのなかった父の姿がありました。当時を生きた人にしかわからない思い。心にぐっとくる作品です。

※それぞれの本の前に付いている番号は、すすめる本の通し番号です。